



修学旅行生の黒糖作り体験は、備前光明・一美製
工房「おやつ村」が提供、キビ刈りから搾り汁の
めて体験できる＝2008年3月、同町比高・おやつ

「ふるさと」にしたい」と意気込んでいる。

現在、町の体験交流施設「あじま一館」の指定管理者として町の補助金を得てNPOを運営しているが、将来は営利法人化も想定、収益を上げて島の雇用にも貢献する方針。

そのため、体験商品の積極販売で一般観光客の利用増を狙うなどの事業も強化する考えだ。

ているのは久米島だけ。各課に散っていた委託業務を束ね、コストを抑えると同時に職員にも生き残るためには何でも自ら汗を流す意識を持つてもらっている」と平内朝幸町長。

自治会や老人会など地域住民の協力を得て町内自治道に花を植える運動も始め、コスト削減と併せて協働のまちづくりを推進している。

地方税の徴収率向上も大きな課題だ。77・2%(同)は県平均の87・5%を大きく下回る県内最下位。「過去に課税された税金が滞納のまま何年も残っている」(平良町長)ことが主な要因で、本年度から税務担当職員を増員、財産の差し押さえも含めて09年度までに県平均に引き上げるよう取

なご園町村と一部事務組合化・広域化できない離島自治体の特殊事情(02年4月の仲里・具志川両村の合併に伴う職員定数適正化の遅れ)などを挙げている。人口1000人当たりの職員数では06年度時点で類似自治体の2倍近い。

このため、合併後の07年4月までに15・8%に当たる40人を削減。町三役から職員まで15・7%の給与カットなども含め、人件費総額で4億円近くを圧縮。その成果もあり過去、数億円ずつ取り崩していた基金は、08年度に取り崩すことなく予算編成に成功している。

しかし、高齢化に伴う扶助費の増加や10億円を越える公債費負担が今後も続く見込みのため、定員削減を主体に経費が大きい人件費の削減を一層進める方針

の組みを強化する。